

あたりまえが、 あたりまえでなくなること

明けましておめでとうございます。

昨年は、米国の関税政策や我が国のコメ政策が大きな社会問題となり、これまであたりまえと思っていた自由貿易体制やコメの手ごろな価格などが、あたりまえでなくなったことに気づかされました。

もちろん、あたりまえというのは長い歴史や経験の積み重ねによって築かれるものですので、時代の変化に応じて新しいあたりまえが出来てきます。

気候変動による猛暑や豪雨、働き方やジェンダーに対する考え方など、新しいあたりまえになってきたのではないのでしょうか。

しかし、あたりまえについては新旧問わず、常に疑問を持ち、科学的な視点でその内容を確認、考える必要があると思います。

農業者にとって大切な肥料、農薬、飼料などは、あたりまえに確かな品質であり、消費者がお店で手にする食品などもあたりまえに品質、安全性が約束されていなければなりません。

FAMICは肥料、農薬、飼料や食品などの科学的検査・分析を通じて、品質、表示の適正性や安全性といったあたりまえについて確かめる取り組みを行っています。

これからもFAMICはこれらの品質や安全性を守るため、科学的検査・分析の技術力向上と皆様への情報の提供に努めてまいります。

皆様のご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

FAMIC (ファミック)

独立行政法人 農林水産消費安全技術センター

理事長 木内 岳志

